

衆議院文部科学委員会ニュース

平成 25. 3. 27 第 183 回国会第 2 号

3 月 27 日（水）、第 2 回の委員会が開かれました。

1 文部科学行政の基本施策に関する件

- ・ 福井文部科学副大臣から発言がありました。
- ・ 下村文部科学大臣、谷川文部科学副大臣、山際内閣府大臣政務官、竹内財務大臣政務官、義家文部科学大臣政務官及び政府参考人に対し質疑を行いました。

（質疑者及び主な質疑内容）

中 根 一 幸君（自民）

- ・ 北海道及び札幌市の教育委員会が、不適切な勤務が明らかとなっていた公立学校教職員 3,909 人に対する処分を 3 月 26 日に発表したことについて、大臣の見解を伺いたい。また、不適切な勤務に対する処分として、戒告や訓告などにとどめるのは不十分ではないか。
- ・ いじめの発生状況と実態についての認識と、いじめに関する緊急調査などを踏まえた今後の対応の在り方について伺いたい。また、緊急調査では、いじめの認知件数が都道府県ごとに大きな隔りがあるが、認知件数が多いほど早期対応の可能性が高まるとも考えられるが、文部科学省の認識を伺いたい。

木 原 稔君（自民）

- ・ 今年度の教科書検定結果における領土問題、南京事件、いわゆる従軍慰安婦、自衛隊などに関する記述について修正の状況を伺いたい。また、自民党の教育再生実行本部の提言にある新たな教科書検定基準について、大臣の見解を伺いたい。
- ・ 高等教育において競争的資金の割合が高まり、地方国立大学における基礎的研究が疎かになっているのではないか。また、私立大学において非常勤講師が多用されている現状について認識を伺いたい。

山 本 ともひろ君（自民）

- ・ 文部科学省に蓄積されている全国学力調査結果のデータを、誰がどのように活用して教育現場の改善に反映させるのか伺いたい。
- ・ 土曜日授業について、過去に学校週 5 日制を導入しておきながら、今般また土曜日授業の導入を検討する意図を伺いたい。

中 野 洋 昌君（公明）

- ・ 海外への留学を推進するために、日本から海外へ留学する日本人学生への奨学金を拡充し経済的負担を軽減すべきと考えるが、文部科学省の見解を伺いたい。
- ・ 独立行政法人改革について政府全体で方針の検討が行われることとされているが、特に研究開発を行う独立行政法人の在り方について、どのように見直しが行われるのか伺いたい。

笠 浩 史君（民主）

- ・ 少人数学級の推進は、党派を超えて取り組むべき課題であり、現政権においても教職員定数改善計画を策定し、教職員定数の改善を予算に計上するべきであると考えるが、大臣の見解を伺いたい。
- ・ 自民党は、高校無償化に所得制限を設けることを政権公約に掲げていたが、幼児教育を無償化する際にも所得制限を設けるのか、大臣の見解を伺いたい。

郡 和 子君（民主）

- ・ 全日本柔道連盟に対する告発で明らかになった女性アスリートと指導者の関係におけるパワハラやセクハラの問題を解決することは、アスリートと指導者の関係や指導者の在り方の改善につながると考えるが、大臣の見解を伺いたい。
- ・ 東日本大震災の被災地では、多くの教職員が共に厳しい体験をした生徒の成長を見守りたいと考えており、そのような意向を尊重した人事異動を行う必要があると考えるが、被災地では人事異動上の配慮がどのように行われているのか伺いたい。

鈴木 望君（維新）

- ・いじめ問題について、いじめと犯罪を区別し適切に対応するために、学校と警察との連携を促進すべきだと思うが文部科学省の見解を伺いたい。また、スクールサポーター制度による警察OB等の配置状況について伺いたい。
- ・教育再生実行会議の第一次提言において、食育の重要性について言及されているが、政府としての取組方針について伺いたい。

田 沼 隆 志君（維新）

- ・教育委員会制度について、責任と権限の所在が不明確であり、また、教育委員会の政治的中立性の確保を理由に選挙で選ばれた首長が政策をすぐには実現できない仕組みとなっている現状に対する大臣の認識を伺いたい。
- ・教育委員会における教科書採択について、教育委員会の形骸化を背景に議事録が公開されていない点や、事務局の案を追認するのみの実態について、文部科学省の見解を伺いたい。併せて、教科書採択において教育基本法第2条に定められている教育の目標の趣旨がどの程度勘案されているかについても伺いたい。

井 出 庸 生君（みんな）

- ・教育再生とは何をどのように再生することか。ゴールとも言うべき再生の目的となる過去の教育事例や施策があれば、その具体的なイメージを大臣に伺いたい。
- ・「教育」は多くの政策があり幅広い意味を持つので、再生の理想像に向け、優先順位を示して施策の継続性や議論を促進する必要があると考えるが、このことに対する所見を大臣に伺いたい。

青 柳 陽一郎君（みんな）

- ・大学について数多くの課題がある中で、大学の在り方、グローバル化に関し、大臣の現状認識及び大学改革の方向性についての見解を伺いたい。
- ・大学のグローバル化に向け、英語力を強化し国際的な通用性を高めるため、一般入試や入学後の科目にTOEFLを活用すべきと考えるが、文部科学省の取組みの現状を伺いたい。

宮 本 岳 志君（共産）

- ・教員の多忙化を解消するために教員全体の定数増を図るとともに、いじめを発見しやすい養護教諭については複数配置基準を引き下げ、常勤複数体制を確立する必要があることについて、大臣に伺いたい。
- ・近年、全国の公立小中学校に非正規教員が増加している背景には、教職員定数改善計画が策定されないことがある。教職員の処遇改善を確実に実施するためにも計画の策定が必要であると考えているが、大臣の今後の見通しを伺いたい。

青 木 愛君（生活）

- ・待機児童問題は喫緊の課題である。子どもの成長過程を考えると、厚生労働省だけでなく、もっと文部科学省が積極的に問題解決に取り組むべきである。例えば、幼稚園教職員の増員等の環境整備を文部科学省が行った上で、幼稚園に保育所の機能を担ってもらうことについて、大臣に伺いたい。
- ・使用済核燃料の最終処理として、ガラス固化体の形で何十万年も地中で管理していくことは妥当ではない。使用済核燃料の最終処理の一つの方策として、長寿命核種を短寿命核種に変換し、放射性物質の半減期を数百年単位に圧縮するような技術がある。大強度陽子加速器施設（J-PARC）を利用して、この核種変換技術を推進していく必要性について、大臣に伺いたい。

吉 川 元君（社民）

- ・高校授業料無償化への所得制限導入と国際人権A規約における漸進的無償化条項の留保を撤回したこととの整合性について大臣の見解を伺いたい。
- ・全国の公立小中学校で非正規教員が増加し、教員総数に占める割合が15%を上回っている現状に対する大臣の見解を伺いたい。